

小児医療センターの歴史

昭和40年代に入ると、埼玉県は急激な人口増加に伴い、毎年高い出生率が続き、次第に人口構造も変化してきた。一方、公衆衛生の向上や医学及び医療技術の進歩に伴い、疾病構造も次第に変化をみせはじめ、特に、小児の疾病構造については、従来比較的多かった感染症が減少し、未熟児、病的新生児、悪性新生物、先天性代謝異常、アレルギー等の割合が増加する傾向となった。このため、埼玉県でも小児のための特殊、専門の医療機関の必要性が高まってきた。

昭和48年	11月	県の中期計画に小児医療センター建設の施策を盛り込む。
昭和49年	3月	「小児医療研究会」から、小児専門の医療施設の必要性が大きいとの報告を受ける。
昭和55年	8月	小児医療センター起工式挙行。
昭和57年	12月	埼玉県病院事業設置等に関する条例の一部改正において埼玉県立小児医療センターの設置を決定(12月定例県議会議決、昭和58年4月1日施行)。
昭和58年	3月	小児医療センターオープン。
平成23年	6月	小児医療センターは耐震上の課題などから、さいたま新都心に移転することが発表される。
平成26年	2月	新病院起工式。自民県議全員欠席。
	3月	55億増額の補正予算案に、委員会で自民反対。本会議でも自民反対。55億減額案を自民提出。可決。県医師会・連合埼玉など16団体が建設要望書を緊急提出。
	4月	臨時議会で再審議。55億増額の補正予算案に、今度は自民、委員会で本会議でも賛成。工事再開。



現在の小児医療センター

[新生児集中治療室(NICU)の現状]



赤ちゃん、初期治療を行いながら新生児集中治療室(NICU)へ入院となります。その数、年間約450件。不足し必要な切れ切れない現状(左図参照)を打破し、周産期医療や救急医療などの高次医療を重点的に行うため、新生児集中治療室や小児集中治療室などを増床しなければならぬ課題は、かなり前からありました。

建物の老朽化と耐震性の深刻な観点からも、平成23年6月2日、同センターはさいたま新都心に移転することが決定しました。

産科を持たない同センターの「弱点」を克服するため、同時移転してくる「さいたま赤十字病院」と連結・連携して、総合周産期母子医療センターが整備されます。

救われる子と母の命の数は、飛躍的に増えることとなります。



さいたま新都心駅方面

JRさいたま新都心駅西口側から見た病院完成図

同時移転するさいたま赤十字病院(右)と連結・連絡して母子周産期医療機能を整備する

県立小児医療センター	さいたま赤十字病院
・階数 地下2階、地上13階	・階数 地下2階、地上14階
・構造 鉄骨造・鉄筋コンクリート造(免震構造)	・構造 鉄骨造(免震構造)一部鉄筋コンクリート造
・敷地面積 10,031.17㎡	・敷地面積 14,001.33㎡
・延床面積 67,885.39㎡	・延床面積 67,452.43㎡
・病床数 316床 (NICU 30床、PICU 14床)	・病床数 632床 (MFICU 9床、EICU 8床)

県立小児医療センター		さいたま赤十字病院	
病棟 (SCU)	14F	病棟 (SCU)	14F
病棟	13F	病棟	13F
病棟	12F	病棟	12F
病棟	11F	病棟	11F
病棟	10F	病棟	10F
病棟	9F	病棟	9F
付加機能 特別支援学校	8F	病棟 (CCU)	8F
家族滞在 管理部門・院内保育	7F	管理部門	7F
病棟 (NICU・GCU)	6F	透析・リハビリ	6F
病棟 (PICU)	5F	病棟 (MFICU・NICU・GCU)	5F
付加機能 発達外来	手術	手術	手術
病棟	4F	病棟 (EICU・救急病棟・HCU)	4F
付加機能 外来	検査	外来	検査
薬剤	2F	受付	2F
	救急	救急	救急
	検査		検査
	1F		1F

建物概要・断面図



小児医療センター+さいたま赤十字病院配置図

いのちを救え

子どもたちの未来は、私たちの未来。

さいたま市岩槻区にある、埼玉県立小児医療センター・未熟児新生児科には、低体重出生の未熟児やハイリスク新生児(生命や後障害の危険の高い、低体温、発熱、呼吸循環障害、脳障害、感染症などの赤ちゃん)が、一年365日24時間、救急患者として搬送されてきます。実は27年前、780gで生まれた長男も同科へ救急搬送されました。

赤ちゃん、初期治療を行いながら新生児集中治療室(NICU)へ入院となります。その数、年間約450件。不足し必要な切れ切れない現状(左図参照)を打破し、周産期医療や救急医療などの高次医療を重点的に行うため、新生児集中治療室や小児集中治療室などを増床しなければならぬ課題は、かなり前からありました。

建物の老朽化と耐震性の深刻な観点からも、平成23年6月2日、同センターはさいたま新都心に移転することが決定しました。

産科を持たない同センターの「弱点」を克服するため、同時移転してくる「さいたま赤十字病院」と連結・連携して、総合周産期母子医療センターが整備されます。

救われる子と母の命の数は、飛躍的に増えることとなります。

小児医療センター+さいたま赤十字病院 さいたま新都心に移転



新病院建設予定地

工事内容	年度	H25	H26	H27	H28
● 本体					
○ 歩行者デッキ					
○ 機械式駐車場等					
○ 外構					

建設工事スケジュール

埼玉県立浦和図書館



▲図書館内部。圧倒的な質感の書架。回廊式になっており、ここで『北のカナリアたち』の冒頭シーンは撮られた。

埼玉県立浦和図書館3館を1館に集約する構想は支持したい。しかし、浦和図書館は地元浦和の大変思い入れの強い建物だ。埼玉県会館から伸びている「エスプラナード」の空間は、浦和図書館が存立し、初めて完結する。

▲建築界の巨人前川國男は、埼玉県会館に広場(エスプラナード)を設計した(1966年完成)。すでに完成していた奥の県立浦和図書館(1960年完成)を取り込むことによって広場は完結した。

東映創立60周年記念作品『北のカナリアたち』は、2012年制作の日本映画。監督は阪本順治氏。この映画の冒頭のシーンに、この浦和図書館が登場する。昭和35年完成の浦和図書館は、県都浦和の強烈な思い出の建物でもある。いったんは役割を終える建物に対して、別の切り口で、次の役割を持たせようとはできないか。県有施設に、新しい生命を与え、新しい鼓動を呼び起こす発想できないか。

予算特別委員会